

従業者を対象とするコンパクト化政策の評価

岩手大学 学生会員 ○高橋泰洋
岩手大学 正会員 平井寛
岩手大学 正会員 南正昭

1. 背景

「仙台 21 プラン」によると、仙台市は集約型の市街地形成への転換を都市空間形成基本方向に掲げている。まちなかにおいて従業者数に比べ就業者数の割合が多くなればコンパクト化が進んでいる可能性があると言える。しかし従業者を対象とするまちなか居住について記述された論文は少ない。

2. 目的

郊外とまちなかの就業者数と従業者数の割合とその変化を比較し、コンパクト化が進んでいるか評価することを目的とした。また、中心市街地に従業者が集中し、変動が大きいと思われるため、駅周辺に絞った比較も行う。今回は仙台市を従業地とする従業者を対象とした。

3. 研究方法

総務省統計局のホームページから国勢調査の2時点の小地域別の男女別15歳以上就業者数(以下就業者数)と、経済センサスの2時点の男女別従業者数のデータを取得した。

2時点のからまちなかの従業者数に対する就業者数の割合の変化を見るため、就業者数から従業者数を引いた値を比較した。この際、国勢調査H17年の就業者数から経済センサスH18年の従業者数(以下時点1)、国勢調査H22年の就業者数から経済センサスH24年の従業者数(以下時点2)の値をそれぞれ引き、更に時点2から時点1の値を引いた。まちなかにおいて2時点の差がマイナスであれば郊外化、プラスであればコンパクト化が進んでいる可能性があると言える。

時点2から時点1の値を引くことで、従業者数の増減の状況を見ることができる。

分析にはESRI社ArcGISを使用した。国勢調査からは数値データと地図データを取得できたが、経済センサスからは数値データのみしか取得できなかったため、国勢調査と経済センサスの数値をそれぞれのコードで小地域名ごとに統合させ、地図に反映した。仙台駅から半径4km、6kmの2通りの範囲をまちなか、範囲外を郊外と設定した。

4. 研究結果

仙台駅から半径4km内外と半径6km内外で就業者数から従業者数を引いた値と時点2から時点1の値を引いた差を図1に示した。0に近づくほどコンパクト化していると言える。図1を見ると半径4kmの場合、時点1はマイナスを示していたが、時点2では若干マイナスの値が大きくなった。

2時点と比較すると、半径4km以内では7,909人分差が開いて従業者数の割合が大きくなっている。それに対し、半径4km外では7,063人分差が開いて従業者数の割合が大きくなっている。半径6km以内では、6,495人分差が開いて従業者数の割合が大きくなっている。半径6km外では8,477人分差が開いて従業者数の割合が大きくなっている。

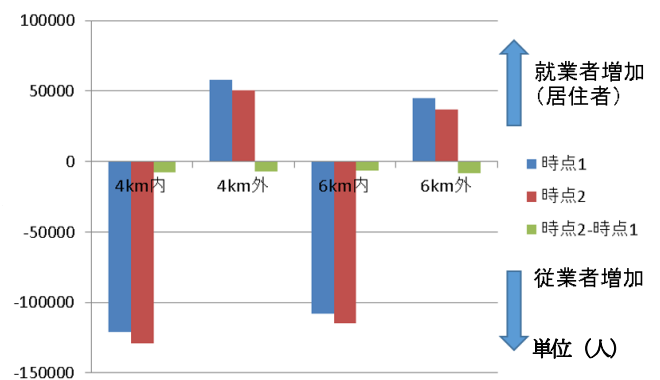


図1 就業者数と従業者数の差

キーワード: 従業者 まちなか居住

連絡先: 岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 電話: 019-621-6453 FAX: 019-621-6460

表 1 時点ごとの就業者数と従業者数

単位 (人)	就業者数 (時点 1)	就業者数 (時点 2)	従業者数 (時点 1)	従業者数 (時点 2)
4km 内	188342	186609	309228	315404
4km 外	275124	272871	217245	222055
6km 内	315814	316391	424027	431099
6km 外	147652	143089	102446	106360
全体	463466	459480	526473	537459

郊外の値は 0 に近づいており、コンパクト化に近づき、まちなかは 0 から遠ざかったため、郊外化しているという可能性が言える。

半径 4km 内外と半径 6km 内外の 4 地点で 2 時点の就業者数と従業者数の値を表 1 に示した。表 1 を見ると、2 時点で就業者数を見た場合、半径 6km 以内のみ若干増加したが、全体的に減少傾向にあった。2 時点で従業者数を見た場合、全体的に増加傾向にあった。まちなか郊外に関わらず、就業者数と従業者数の差が広がり、従業者数が多くなっている。また、仙台市の人口総数は増加しているが、就業者数は減少し従業者数が増加している。

図 2 に時点 1 の駅周辺拡大図、図 3 に時点 2 の駅周辺拡大図を示した。色が赤に近づくほど人口のほうが多くなり、青に近づくほど就業者数の方が多くなる。図 2 と図 3 を見比べると、駅周辺の中心は若干青色が濃くなった地域と薄くなった地域があり、駅周辺を一括りにするとあまり大差は見られなかった。また、その周りには赤色の割合が増えている。H22 年から H17 年の就業者数を引いた値と H24 年から H18 年の従業者数を引いた値を比較した。従業者数は、青葉区が増加し、青葉区以外は減少しているが、青葉区は他区の減少を全て補う程の増加をしており、全体でプラスの値を示している。仙台駅周辺の西口側は青葉区が占めているため、従業者増加の要因と思われたが、大きな変化は見られず、全体でゆるやかに増加していると考えられる。

5. 結論

仙台駅から半径 4km・6km 以内では就業者数に対して従業者数が増加し、差が広がってしまったため、まちなかと郊外を従業地とする従業者を対象とした場合、本分析ではコンパクト化している様子が見られなかつ

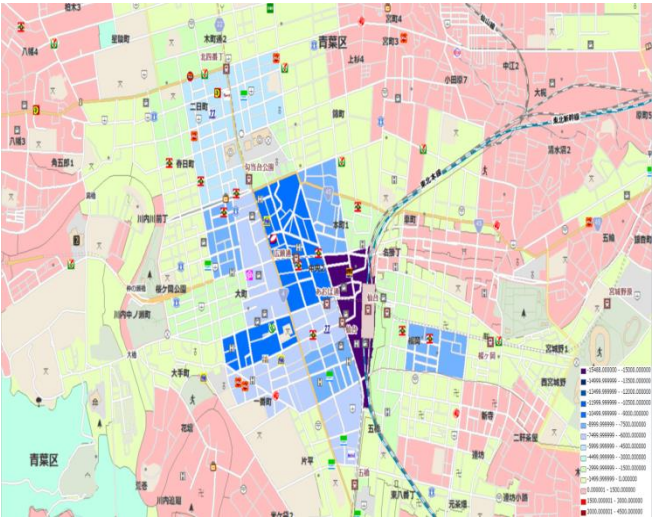


図 2 時点 1 の駅周辺拡大図

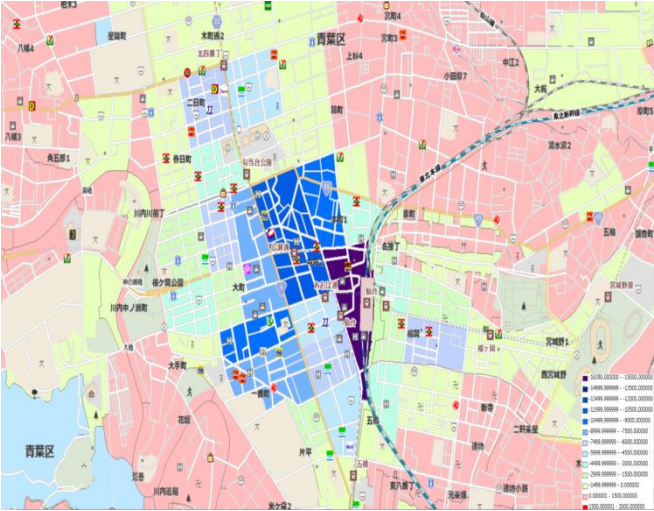


図 3 時点 2 の駅周辺拡大図

た。
今回は国勢調査と経済センサスの年度に近い 2 時点の比較しか行っていない。他の複数の年度について比較することで変化の経緯を知ることができ、まちなかの就業者数が増加していた場合のその要因を知るきっかけになり、コンパクト化促進の手がかりになる可能性があるため、複数年度の比較を行うことが今後の課題である。

参考文献

1) 上竹悠介・桶口秀・中出文平・松川寿也:
「地方都市における勤労単身世帯の居住実態とそのまちなか居住推進に関する研究」, 公益社団法人日本都市計画学会・都市計画論文集, Vol. 46, No. 3, 2011年10月
2) 大橋桂子・石坂公一:
「コンパクトシティ政策の実証分析」, 日本建築学会計画系論文集, 第74巻, 第635号, 177-183, 2009年1月
3) 仙台市役所:「仙台21プラン」,1998年